

平成20年度当初予算 重点的な取組別概要
< 重点事業 >

くらし11：森林再生「三重の森林づくり」(担当部：環境森林部)

< 重点事業の目標 >

森林の公益的機能は、すべての県民の皆さんの生活に寄与し、不可欠なものであることから、その機能の維持増進に向けた取組は、緊急かつ着実に進めなければなりません。そのため、喫緊の課題である間伐に取り組むとともに、県産材の利用拡大を進め、林業を活性化することにより、適正な森林整備・保全を推進します。

また、生活の中で森林の役割や木を使うことの意義を理解し、多様な主体がそれぞれの役割に応じて互いに協働しながら森林づくりに参画していけるよう、森林文化および森林環境教育の振興、森林づくりへの県民参加推進のためのしくみづくりを進めます。

< 構成事業(担当部) >

- (1) 環境林整備推進事業(環境森林部)
- (2) 生産林整備推進事業(環境森林部)
- (3) 林業担い手育成確保対策事業(環境森林部)
- (4) 「三重の木を使おう」推進事業(環境森林部)
- (5) 長伐期化に対応した森林管理・中大径材利用技術の開発事業
(政策部科学技術振興センター)
- (6) 多様な主体による森林づくり事業(環境森林部)
- (7) 「みんなで考える三重の森林」事業(環境森林部)
- (8) 漁民の森づくり活動推進事業(環境森林部)
- (9) 森林とのふれあい・学び事業(環境森林部)

< 重点事業の事業費 >

(単位：千円)

H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
(1,243,843)	(1,126,000)		
1,244,449	1,140,027	1,126,000	1,126,000

H19年度は現計予算額、H20年度は当初予算要求額

H19およびH20年度の上段括弧書き、H21年度、H22年度は第二次戦略計画の記載額

< 重点事業の数値目標 >

目標項目		H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
間伐実施面積	目標値	-	8,000ha	8,000ha	8,000ha	8,000ha
	実績値	7,452ha				

県内の民有林で行われる年間間伐実施面積

重点事業で取り組む間伐事業のほか、治山事業、民間独自の間伐等を含みます。

< 構成事業の目標 >

目標項目		H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
(1) 森林整備面積 (環境林)	目標値	-	2,200ha	2,200ha	2,200ha	2,200ha
	実績値	1,500ha				
(2) 森林整備面積 (生産林)	目標値	-	4,100ha	4,100ha	4,100ha	4,100ha
	実績値	2,780ha				
(3) 林業作業士研修受講 者数	目標値	-	10人	10人	10人	10人
	実績値	11人				
(4) 「三重の木」認証材の 製材工場からの出荷量	目標値	-	7,000m ³	8,000m ³	9,000m ³	10,000m ³
	実績値	5,137m ³				
(5) 長伐期化対応の森林 管理・中大径材利用技術 開発	目標値	-	1件	2件	2件	2件
	実績値	-				
(6) 森林づくりへのサポ ート回数	目標値	-	5回	5回	5回	5回
	実績値	5回				
(7) 森林フォーラム等へ の参加者数	目標値	-	700人	700人	700人	700人
	実績値	650人				
(8) 漁民の森づくり活動 参加者数	目標値	-	270人	320人	370人	420人
	実績値	220人				
(9) 指導者研修会の開催 数	目標値	-	3回	3回	3回	3回
	実績値	-				

< 進捗状況（現状と課題） >

- ・長期的に林業の採算性が悪化してきた中で、森林所有者の施業意欲の低下などにより、森林の荒廃や公益的機能の低下が懸念されますが、平成19年度は、当初計画の間伐実施面積8千haを達成できる見込みです。
しかしながら、林業従事者の減少や高齢化は依然として進んでおり、森林に対する県民の期待が高度化・多様化する中で、林業を支える担い手の育成が急務となっています。
- ・「緑の循環」を通じて森林の公益的機能の維持増進をはかるため、県産材の利用拡大をはかると同時に、木材の安定生産に向けた取組が必要です。
- ・健全な森林を次世代に引き継ぐためには、森林づくりや木材利用を進めることの重要性についての理解がいつそう深まることが期待されます。そのため、「企業の森」をはじめ、多様な主体による森林づくりや森林環境教育を一層進める必要があります。

< 平成20年度の取組方向 >

森林の公益的機能の増進をはかるため、環境林および生産林において、間伐を主とする森林整備に取り組んでいきます。また、林業担い手の確保については、職場研修による新規就業者の確保とあわせて技術研修による就業者の定着化を促進します。

「緑の循環」の円滑化のため、森林経営の改善に向けた森林施業の集約化などにあわせ、「三重の木」認証材制度の確実な定着と認証材の利用拡大に努めるとともに、成熟しつつある人工林資源の有効利用をはかり、県産材の需要拡大に努めます。

県民の森林づくりへの理解を深めていただくため、「三重のもりづくり月間」を中心として森林環境教育に取り組むほか、県民参加の森林づくりを進めるため、森林ボランティア研修会や「企業の森」に対して支援を行います。

< 主な予算要求事業 >

森林環境創造事業【20年度予算額 296,316千円】(事業(1)の一部)

環境林に区分された森林のうち、所有者から20年間管理委託を受けた森林を公共財として位置づけ、森林の公益的機能が持続的に発揮されるよう、間伐などにより針葉樹と広葉樹の混交林への誘導を行うなど多様な森林づくりを行います。

造林事業【20年度予算額 332,626千円】(事業(2)の一部)

森林の公益的機能の高度発揮をはかるため、植栽、下刈、間伐等の森林整備を促進します。

林業担い手育成確保対策事業【20年度予算額 7,843千円】(事業(3))

森林整備、木材生産を担う林業就業者の確保・育成をはかるため、新規参入促進のための普及啓発や従事者の技術習得の研修等を行います。

「三重の木を使おう」推進事業【20年度予算額 126,000千円】(事業(4))

県産材の利用を促進するため、「三重の木」認証材を使った家づくりの情報発信を行うとともに、「三重の木」を使用する住宅建築を支援します。

長伐期化に対応した森林管理・中大径材利用技術の開発事業

【20年度予算額 1,425千円】(事業(5))

人工林の伐採時期の長期化に対応し、林業経営上不可欠になる林分収穫表を作成するとともに、生産されるスギ、ヒノキ中大径材を木造住宅の梁桁材に利用しやすくするスパン表を作成します。

多様な主体による森林づくり事業【20年度予算額 3,336千円】(事業(6))

森林環境に関心を寄せる企業による「企業の森」づくりや、ボランティアによる「ボランティアの森」づくりを促進するため、森林所有者との仲介や技術サポートをします。また、森林管理に関する課題の解消に向け、住民、企業、NPO等が連携して取り組むための場づくりなどを行います。

森林とのふれあい・学び事業【20年度予算額 9,069千円】(事業(9))

森林環境教育の振興をはかるため、指導者の養成、フィールドの整備、体験教室の開催、学習推進にかかるコーディネートを実施します。また、森林文化の振興をはかるため、森林や木とのふれあいを促進する各種事業を実施します。

